

仕事人のアイテム紹介

『アイテム名：書のこころ』

VOL.020

アイテムは「書のこころ」 今月号では、東通村出身の書道家 坂本 素雪さんをご紹介します。

東通村出身の書道家 坂本 素雪^{そせつ}さんに、書道展の開催、研究をしている毎日書道会から『第38回毎日書道顕彰(芸術部門)』が贈られました。

坂本さんは、昨年7月に東京で開いた個展「坂本素雪こころの書展 線と空間…そして叙情」において、力強い線と余白の美が高く評価され、このたびの受賞に至りました。坂本さん、本当におめでとうございます。



毎日書道顕彰受賞式



坂本さんから村に寄贈された書



坂本 素雪さん

1949年 老部生まれ。本名：坂本 博和

1988年に「伊呂波書の会」結成し、その後、むつ市に「素雪書院」を開設。

2024年に 個展「こころの書展 線と空間…そして叙情」開催するなど、現在も精力的に作家活動に取り組む。毎日書道展審査会員や書道芸術院理事を務める傍ら、東通小・中学校のこどもたちに、書道の学習の時間に、指導する等、書の文化継承にも尽力される。

撮影協力者：書道家 坂本 素雪さん(77歳)

当コーナーでは、取材協力者を募集しています。

自慢の“^{アイテム}相棒”ご応募ください♪

今日の『ひがしどおり小話』

No.31 豊穰祈る 東通村の秋

読書の秋に『東通村史』(発行：平成元年)を読むと、秋は五穀豊穰を祈る年中行事が行われてきたことが分かります。家々の田畑で収穫を迎える稔りの秋、十五夜には、枝豆やキミ(とうもろこし)を月の見える窓に供え、10月20日には、新米をケッコ(粥)にさせていただく「二十日コ」を行い収穫に感謝しました。

現在も、風習が受け継がれ、9～11月にかけて各地区の神社では、五穀豊穰を祈る「秋の例大祭」が行われています。このうち、小田野沢部落会から、秋の例大祭行事について、お寄せいただいたのでご紹介します。

鍵懸神社・深山神社例大祭-しめ縄づくり(小田野沢地区)



しめ縄をつくる参加者の皆さん

8月30日、鍵懸神社・深山神社の例大祭に向けて、毎年恒例の「しめ縄づくり」を行い、部落会氏子や地元企業の社員47名が参加しました。参加者らは、氏子の合図で3本の縄を編み込み、暑い中、汗だくになりながら、朝7時から4時間かけて完成させて、拝殿に奉納しました。

9月13日の例大祭では、直会が行われ、参拝に訪れた方たちは、無事完成した「しめ縄」をくぐり、地域の発展と五穀豊穰を祈りました。